

日本農業新聞

エコ農業理解深めて

茨城県が笠間市で研修会

【いばらき】茨城県は17日、笠間市の県農業総合センターで「エコ農業茨城推進研修会」を開いた。環境保全や環境にやさしい営農活動について理解を深め、エコ農業茨城の地域での取り組みを促すのが目的。市町村、JAなどの担当者100人が出席し、環境保全型農業の取り組みなどについて研修した。

宇都宮市の逆面エコ・アグリの中野伸一事務局長は「フクロウと

の共存を目指した環境保全型農業」の題で発表し

た。構成員全員が、野生動物が生息できる環境を保全していくという共通目的を持ち、化学肥料、化学合成農薬の節減に取り組んでいると紹介。「生産した特別栽培米をフクロウ米として差別化して販売している」と背景や経緯を説明した。

茨城県つくば市の農業生産法人(株)筑波農場の小久保貴史代表は「カバークロープを活用した米の

ブランド化の取り組み」

について報告した。レンゲソウは水田裏作の緑肥、飼料、蜜源、景観用として広く利用されていると説明。「稲を作るのではなく稲が育つ環境をつくることを重視し、収穫高より品質の高いブランド米作りをしている」と述べた。

県農産課は環境保全型農業直接支援対策などを説明した。